

## 平成28年度第2回たづくり・グリーンホール利用者懇談会

- 1 日 時 平成28年11月2日（水）19時から20時まで
- 2 会 場 調布市文化会館たづくり10階 1001学習室  
（調布市小島町2丁目33番地1）
- 3 出席者 市 民 4人  
事務局 10人  
調布市：榊文化振興課長、中島生涯学習交流推進課長  
財 団：吉田常務理事、土方事務局長、窪田総務課長、  
鈴木コミュニケーション課長兼たづくり事業課長、  
常廣総務課長補佐、阿部グリーンホール事業課グリー  
ンホール事業係長、大割総務課施設管理係長、  
立石たづくり事業係主査
- 4 資 料  
平成28年度第2回たづくり・グリーンホール利用者懇談会（平成28年  
11月2日）要望事項対応表【平成28年10月20日現在】

### 《会議録》

- 1 開会
- 2 財団あいさつ 吉田常務理事
- 3 出席者紹介 調布市及び財団出席者の紹介
- 4 連絡事項 発言者の注意事項

#### ○窪田総務課長

皆様、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第2回たづくり・グリーンホール利用者懇談会を開会します。進行につきましては、お手元に配付している利用者懇談会の次第に沿って進行します。

初めに、本日の配付資料を確認します。1点目が、利用者懇談会の次第です。2点目が、平成28年度第2回たづくり・グリーンホール利用者懇談会要望事項等対応表です。ほかに、机上に出席票を配布しています。それでは、次第に沿って進行いたします。次第2、

財団あいさつとして常務理事の吉田からごあいさつを申し上げます。

○吉田常務理事

こんばんは。本日は夜分にもかかわらず、また、お忙しい中を今年度2回目となる利用者懇談会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

スポーツの秋、また、芸術の秋と言われますが、まさに私ども調布市も今、第61回調布市民文化祭を行っている最中です。約1か月にわたり、たづくり、グリーンホールを使い、1年かけてこつこつと市民の皆様が作品、あるいは舞台をつくり上げ、文化祭等の発表をとおして、そのわざを披露しております。私どもそれを見るたびに調布市の市民の皆様は芸術・文化への関心が高く、熱意がある方が多いと感じています。

たづくりもグリーンホールも大変利用率が高く、日頃からなかなか施設の予約がとれないという市民の皆さんのお叱りをいただいたりしておりますが、これも裏を返せば生涯学習や芸術・文化への関心の高さ、また市民の皆様のそうした活動への取り組みの熱意がほかの地域に比べてかなり高くなっているのだらうと思います。施設のあり方の難しさを感じているところです。

ご存知のように、昨年文化会館たづくりが20周年を迎えました。実はグリーンホールは来年開館40周年を迎えることとなります。当然ながら経年劣化というものがあり、私どもは施設の老朽化ともたたかっっていかなければならないと思っています。

今後も施設の老朽化などにも十分目を向けながら使いやすい施設づくりに努めていきたいと思っていますので、ぜひ皆様方のご理解、ご協力をいただければと考えています。

本日は限られた時間ではございますが、忌憚のない意見交換により、意義のある懇談会になればと思っていますので、よろしく申し上げます。

○窪田総務課長

続きまして、次第3、出席者の紹介に移ります。

最初に、調布市側の出席者から紹介します。生活文化スポーツ部文化振興課の榎課長です。

○榎文化振興課長

榎です。よろしく申し上げます。

○窪田総務課長

同じく生活文化スポーツ部生涯学習交流推進課の中島課長です。

○中島生涯学習交流推進課長

中島です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

次に、私ども調布市文化・コミュニティ振興財団の出席者です。改めまして、常務理事の吉田です。

○吉田常務理事

吉田です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

事務局長の土方です。

○土方事務局長

土方です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

コミュニケーション課長兼たづくり事業課長の鈴木です。

○鈴木コミュニケーション課長兼たづくり事業課長

鈴木です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

たづくり事業課主査の立石です。

○立石たづくり事業課主査

立石です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

グリーンホール事業係長の阿部です。

○阿部グリーンホール事業係長

阿部です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

総務課長補佐の常廣です。

○常廣総務課長補佐

常廣です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

総務課施設管理係長の大割です。

○大割総務課施設管理係長

大割です。よろしくお願いします。

○窪田総務課長

最後に、本日、進行を務めます総務課長の窪田です。よろしくお願いします。

なお、総務課総務係長の高橋ですが、本日は欠席をさせていただいております。

続いて、次第4、連絡事項です。この利用者懇談会に際して、お願いなど連絡事項があります。

まず、1点目、お手元に配付してある出席票にご記入をお願いします。特に座席番号の記入をお忘れのないようにお願いします。お帰りの際に机の上に伏せてお帰りください。住所欄には町名のみで結構です。もしくは所属団体名の記入をお願いします。そして氏名を記入してください。

2点目は、この懇談会では情報公開用の会議録作成のため、録音いたします。これを要約した形でホームページで公表し、また、財団報ぱれっとには、一部を抜粋し掲載する予定です。なお、発言者の氏名は公表しません。

3点目、この会の終了予定時刻は21時とします。

4点目、本日、財団報ぱれっと等での掲載の記録用として写真撮影をいたしますので、ご了承をお願いします。

初めて、または、久々に参加される方もいらっしゃると思いますので、利用者懇談会についてご説明いたします。利用者懇談会は、日頃、たづくり、グリーンホールを利用されている方々と意見交換をし、お寄せいただくご意見により、よりよい運営を目指すことを趣旨としています。スムーズな進行を心がけますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。

それでは、次第5に入る前に、前回の利用者懇談会でのご意見に対するその後の対応を行っているものについて、確認をいたします。本日の配付資料にある要望事項等対応表の右欄に太字下線で平成28年10月20日現在と記した対応状況の部分に関する確認です。

No. 2の欄、前回、スタジオ内の背景に撮影用のブルーバックを導入してほしいというご意見がありました。こちらについては、10月20日現在、利用状況を踏まえて、適切な製品を選定しているところです。

要望事項等対応表については以上となります。

それでは、ここからお1人ずつご意見を伺いたいと思います。発言時間には制限は特にありませんが、出席者の皆様全員からお話を伺いたいと思います。全員の方が話す時間が

とれるように配分させていただくことがありますので、あらかじめご了承をお願いします。

発言がある場合には挙手をしていただき、発言する方を私から指名いたします。なお、発言の前にはお名前を言ってください。それでは、私どもから見まして、左側の方からお願いします。

○N

Nと申します。毎回なるべく利用者懇談会には参加しようということで顔を出させていただいております。

前回は特に発表系の施設予約がなかなかとりにくいという話をさせていただきました。先ほど吉田常務理事からグリーンホールが開館40年ということで経年劣化という話もありました。実はグリーンホールができた当時に初めて市民の第九を実施した経緯がありまして、そこから毎年、4年に1回は電気通信大学のオーケストラで続けて、また来年の12月には実施しようとして今計画しているところです。そのほかにも、その後、音楽連盟やオペラ振興会などができ、グランドオペラもまた今年の12月に実施予定だそうです。私たちは市民の取組として、そのようなことを実施しています。また、調布の中にもそういう取組が大分定着してきたと感じています。

経年劣化だけではなく、改修計画もあるということで、その間使えなくなるということをし少し心配しています。今後、市報でのお知らせも当然出てくるでしょうが、いつまでには改修をしなければならないという予定で構わないので、そういうことを考えているという情報をもしただけであれば、我々の活動計画の中に織り込んでいきたいと思っています。

財団の事業でなかなか施設の予約ができないこともあります。我々市民の活動は、働いているメンバーもいるため、どうしても土日が中心になってしまいます。ぜひ一般市民の申し込みを受けられるような状態で運営してもらいたいということもあります。公表できる範囲で結構なのですが、改修計画についての情報があれば教えていただきたいと思っています。

○榊文化振興課長

たづくりに関しましては、開館から20年を超えておりますので、大規模改修に向けた検討をしています。

ただし、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、そこまでは休館をしないよう、使い続けていきたいと考えています。今後、大規模改修に向けた内容については、2020年以降と考えていますが、まだ案の状態であり、具体的にいつから改修というところ

ころまでは検討は至っていない状況です。休館ということになると、また改めて市民の方にはお知らせするようになるかと思えます。

グリーンホールについても、今後全庁的に検討されていくかと思えますが、安全・安心面からの最低限の改修は必要であると考えています。これも具体的に長期の休館が必要なのか、休館しなくても改修がいけるのかというのは今後検討の中で出てくるところかと思えます。方向性が出た段階で、市民の皆様にお知らせをしていきたいと考えています。

○N

私も東京オリンピック・パラリンピックの心配もあわせて、非常に喜ばしいことなのかもしれないが、関連イベントということで必ずしもスポーツだけではなくて、文化行事など相当数が入ってくるのではなかろうかと感じています。歓迎すべきなのか、心配すべきなのか、気をもんでいるところです。

○窪田総務課長

続きまして、Oの方、お願いします。

○○

Oと申します。よろしく申し上げます。久々に出席させていただいております。

まず、去年の公民館・たづくり利用者会議で行われたお祭りで気がついたことを言わせていただきます。

最初は、公開講座実施時の資料代の徴収が緩和され、実施の際の負担軽減につながったことは喜ばしいことです。それから、文化祭では、二十数団体が参加しているので、日によって案内掲示の仕方が難しい状況でした。それを去年は1階の入り口の電光掲示板の下にパネル2枚を出して、全部手作りですが、模造紙2枚を前面に出してもいいということを出させていただきました。そのほかにもありとあらゆるところ、掲示板とか壁とかいろいろ、ここも使っていい、あそこも使っていいとアドバイスいただき、効果的な宣伝にもつながりました。本当に感謝しています。

また、1階エントランスに丸テーブルと椅子が配置されました。最近たづくりに行くと多くの方が利用しており、好評です。あそこで休憩をとられている方が非常に増えており、よい環境となっています。

ただ、今後も高齢化が進むことから、もっと休憩場所が増やせないのかというのが少し気になるところです。

○大割総務課施設管理係長

休憩場所ということで、1階の部分はあのような形でテーブルを置いて、休憩をいただいています。それ以外の場所については、市と協議し、今後検討していくというところをお願いしたいと思います。

○窪田総務課長

よろしいでしょうか。

○○

はい。また気がついたら発言します。

○窪田総務課長

それでは、Uの方、お願いします。

○U

Uと申します。今日で2度目の出席です。榊文化振興課長にお尋ねしたいのですが、文化とは何でございますか。あなたが担当していらっしゃる文化はどのような意味なのですか。急にこういう質問をして恐縮なのですが、先ほど財団代表がごあいさつの中で、調布は芸術・文化への関心や熱意がある方が多いということでした。私は調布に住んでいますが、芸術・文化への関心や熱意の低い人たちばかりです。組織を運営する以上、もう少しその担い手である人間がもっと教育されていなければいけないのではないかと感じる事が非常に多いのです。

例えば、今から2年前にエレベーターのドアに英語で「Heartful Elevator」と書いてあったのです。ハートフルエレベーターという表現は英語では言わないのです。私は市長宛てにこういう和製英語を英語とっていると教育上よくないので、正確な英語を書いてくれと申し入れました。そうしたら、職員から「和製英語はもう普及しているのだから、これでいいのです」という返事が届きました。

しかし、私は和製英語が世界で通用するとは思っていません。調布は国際交流平和都市ですよね。それから、文化について私がお尋ねしたのは、文化というのは一体どういうことなのだろうかということについて疑問に思っているのです。誤った英語を書く能力しかない職員が100年後、200年後の文化について考えることができるのだろうか。そんなことも分からないような市役所の職員や財団の職員しかいないのですか。もう少し教育ということをお大事になさったほうがよろしいのではないですか。

○大割総務課施設管理係長

ハートフルエレベーターについてお答えします。車椅子をご利用の方がエレベーターに

乗れないという状況がたまにあり、譲り合ってご利用くださいという趣旨でほかの施設でそういう例があったので、ハートフルエレベーターというような表記をいたしました。英語としてそういう表現がないということはご指摘のとおりですが、あくまで一般的な市民の方に向けたメッセージなので、ハートフルという日本語の表記は残しております。

○U

では、譲り合いのエレベーターとしたほうがよろしいのではないですか。

○大割総務課施設管理係長

ご意見として承ります。

○窪田総務課長

今、貴重なご意見をいただきましたが、まだ次の方もいらっしゃいますので、よろしいでしょうか。まだほかにございますか。

○U

どうぞ、結構です。

○窪田総務課長

それでは、Fの方、お願いします。

○F

Fです。私の議題は事前にお読みいただいていると思います。財団で実施していただいている市民カレッジ、それから近隣大学の公開講座、財団として非常にいい催しをしていただいて、ほかの市からすれば非常にうらやましがられていることで、本当にありがたく思っています。これは今後とも多くの題目、頻度で続けていただきたいと思います。

希望としては、最初に講座名、あるいは講座案内でお書きいただく内容は、講座の内容をしっかりと表したものにしていきたいです。受講するか選ぶ際に、題名と内容紹介のみであることから、講師に徹底し、羊頭狗肉になることのないようにしていきたいです。

2つ目は、10月3日にあった「今日におけるオペラの楽しみ方」、これは公開講座です。私はオペラは嫌いなほうではないので、楽しみにして受講したのですが、内容は日本国内のオペラハウスの紹介と、あとは学校の宣伝ということで、それで全部済んでしまいました。肝心の題目の「今日におけるオペラの楽しみ方」という話は全くなかったです。私の隣にいた女の人も、今日は損をしました。来るのではなかったというような意見でした。



市民カレッジは必ずレジユメの配付がありますが、公開講座で先日の講座ではレジユメがありませんでした。話の内容の整理もできるので、ぜひ講師にレジユメの作成を励行していただきたいです。

3つ目は、国立音楽大学の安川智子先生に、公開講座で「トゥーランドット」を講義していただきました。ご自分でピアノを弾いていただいて、オペラの中のテーマも非常に分かりやすく紹介していただきました。前に市民カレッジで平成14年から21年まで続いた堀内先生の「オペラの愉しみ」という講座がありました。内容は映像を示して、簡単な説明を加えるということだったのですが、安川先生の話はそれと全く違い、もう少し高度な音楽的な内容も分かりやすく説明していただいたので、ぜひ市民カレッジとして取り上げていただきたいと思います。

4つ目は、公開講座のお話は録音を残していただきたいです。これは通常の映像が加わる講座ですと、ビデオに撮るというのは少し面倒なのですが、音声だけのお話が多いのです。多くの講座はマイクを使っていると思うので、マイクとレコーダーをつなげばそのまま録音できると思います。財団の財産にもなると思うので、ぜひ検討していただきたいと思います。

5つ目は、市民カレッジ等は、昼間の開催だけではなく、土曜日、日曜日、あるいはウイークデーの夜間の開催を増やしていただきたいと以前からお願いしております。企画にあわせていろいろ検討はしていただいていると思いますが、財団としてこういう要望をぜひ取り入れていただきたいと思います。

6つ目は、自動車の駐車場の件です。私自身は運転できないのですが、駐車する人から背の低い車は平置きできなくて、立体駐車場に入れてくれと言われると聞きました。図書館に本を返すような10分、あるいは15分ぐらいで済む場合に、立体駐車場に車を入れるのは時間をもったいないので、料金が高くなってもいいので、ほかの条件があるのならば、それを入れていただいて、背の低い車も平置きのところに置かせていただきたいという要望がありました。

私が昨日実態を確認しましたが、場所が空いていれば背の低い車も平置きしてもらっていますというお話が駐車場の係員からありました。本日、再確認したいと思っております。

先ほどエントランスの丸テーブルについてお話がありましたが、先日学生がノートを広げて勉強している人がおりました。長時間占有するような使い方は警備の方が注意してあげたらいいのではないかと思います。

私からの提案は以上です。

○窪田総務課長

ただいまFさんから7点、ご要望、ご意見を頂戴しましたので、1つずつ回答させていただきます。

○立石たづくり事業係主査

まずは安川先生の講座についてです。安川先生は近代フランス音楽がご専門ということで、オペラに関しましても、確かに連続講座をやっている経験がおありだそうです。

大変お忙しい先生ですので、市民カレッジを引き受けていただけるかどうかは今後も調整が必要ですが、実施できるかどうかの可能性も探りながら平成30年度以降の市民カレッジの候補としてこちらから提案していきたいと思います。

○F

平成30年度以降ですか。まだ2年あります。

○立石たづくり事業係主査

今申しあげたとおり、安川先生などの人気の講師については、調整に割と時間がかかるところです。また、平成29年度分の講座は既に現時点で予定が決まってしまうところもあり、平成30年度以降の候補として提案させていただければと思います。

○F

もう少し早くならないかよく検討してください。みんな楽しみにしています。この公開講座のときのアンケートをご覧いただいても、もっと聞きたいとか多分同じような意見が多いと思うのです。30年という、まだあと2年もありますから、前倒しをぜひお願いします。

○立石たづくり事業係主査

続きまして、公開講座などの録音について回答します。ほかのご質問もそうなのですが、本当に期待を高くいただいて大変感謝いたします。録音につきましては、記録としての録音を検討していきたいと考えています。

ただ、これに関しましては、私どもの現状として、一般に公開するという目的で録音するというのではなく、あくまで内部の記録として本当に簡易な録音の方法で録音しまして、例えば一定期間保存した後、廃棄するなどの記録用の内部資料としての録音を検討していきたいと思います。

実際に録音すること、録音する作業などにより、金銭や人的なコストが必要となる場合

があるかと思しますので、そちらも勘案しながら、合理的な配慮を検討していきたいと思っています。

○F

本来は財団の財産として残せばいいのではないかと思います。少なくとも後で受講者からの質問があって、確認できるということにしておいていただければ、費用は全然問題になるようなことではありません。できない理由を言うのではなくて、どのようにしたらできるかというのをまず考えてもらいたい。

○立石たづくり事業係主査

続きまして、ご提案いただいていた現役世代の方々に参加できるような講座、講演会等々に関するところですが、私どもたづくり事業課でも、提案も実際にあります。今後に関してですが、例えば若い世代の方をターゲットとして実施する講座であれば、どのような時間や曜日がよいかということも考慮しながら、若い世代や現役世代の方に対しても学びの機会が提供できるような講座の計画を今後検討していきたいと思っています。

○大割総務課施設管理係長

6点目の駐車場についてお答えします。お気持ちはよく分かるのですが、立体駐車場が高さが1.5メートルという制限がありまして、それを超える車を優先的にご案内しています。

背の低い車をご希望に応じて平置き部分にご案内すると、止められるスペースが20台分しかないことから、すぐに満車になってしまいます。背の高い車、1.5メートルを超えるような車が駐車できずに外でお待たせしてしまうということがあるため、基本的には1.5メートルを超える車を優先的に平置き部分にご案内しています。

もちろん車椅子をお使いの方で配慮が必要だという場合には平置き部分をご案内しますが、そういった場合を除き、背の低い車については立体の方をお願いしたいと思います。

係員が申しあげたことというのは、現場の運用として、明らかに経験から空いていて、これからも混まないだろうという確実な予想がある場合であり、希望に応じてご案内することもあるかと思いますが、原則としては、今申しあげたような運用でご理解をお願いしたいと思います。

○F

原則は1.5メートルを超す車は平置きさせるが、それ未満のものは立体駐車場に置く。ただし、場合によっては現場の保守員の判断で背の低いものも平置きさせてもらうことは

できるということでしょうか。

○大割総務課施設管理係長

はい。

○F

分かりました。

○大割総務課施設管理係長

1階のエントランスホールの丸テーブルの利用についてですが、テーブルのところに小さいカードで公共の休憩スペースなので、長時間のご利用はご遠慮くださいというメッセージを載せています。警備員や我々職員もそうですが、余りに長時間そこで勉強している人がいれば声をかけるようにしています。

○F

混みあっているときは必ず警備員が、ここは長時間の占有は困るという注意をしないと、ここは使っていないのだということになってしまうと思います。徹底していただきたいです。

○窪田総務課長

Fさん、ほかにはよろしいでしょうか。それでは、一巡しましたので、皆さん、よろしいでしょうか。

本日は大変貴重なご意見を頂戴しまして、ありがとうございます。今後、たづくり・グリーンホールの運営に活かしてまいりたいと思います。

また、今後、何かお気づきの点が出てきた場合につきましては、7階事務室、お電話でも結構ですので、お声がけを頂戴できればと思いますので、よろしくをお願いします。

なお、次回の利用者懇談会ですが、来年6月頃の土曜日又は日曜日の昼間の時間帯を予定しております。今後、ホームページや財団報ぱれっとで決定次第お知らせしますので、よろしくをお願いします。

それでは、これをもちまして平成28年度第2回利用者懇談会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございます。

——了——